**中林　瞭象 （なかばやし・りょうしょう）**

**１、プロフィール**

川柳作家。青森県川柳社の創立同人。同川柳社の代表を３代目から継ぎ22年間務め、県川柳界発展に尽力した。

＜生没＞

1909（明治42）年２月24日～1988（昭和63）年５月30日

＜代表作＞

句集『歩道』『下戸のたわごと』

＜青森との関わり＞

黒石市生まれ。酒類販売業を営む。他、黒石市教育委員、同民生委員協議会長等務める。

**２、作家解説**

明治42年２月24日黒石市生まれ。黒石町立黒石尋常小学校卒。大正10年同市宇野酒造店勤務。昭和15年宇野酒店退職後酒類販売業を営む。黒石市教育委員、同民生委員協議会会長等を務めた。

昭和２年川柳入門、川柳「みちのく」誌友となる。昭和５年みちのく吟社同人となる。昭和23年青森県川柳社創立同人、機関誌「ねぶた」の編集を務める。昭和40年、後藤蝶五郎、佐藤狂六の後を継ぎ同川柳社代表を死去する昭和63年まで22年間務める。昭和33年句集『歩道』同61年句集『下戸のたわごと』刊行。県川柳社の代表として県柳壇の発展に尽力した。また２冊の句集を刊行し、全国誌である「路」「川柳研究」に投句し作家としても県柳壇の重鎮であった。昭和55年、同63年県柳人のアンソロジーである『青森県川柳句集』１、２集を編集刊行し、貴重な資料を残した。昭和63年５月30日死去（行年80歳）。平成元年黒石市中野神社に「雪を恋い雪を恐れて古稀至る」の句碑建立。

**３、資料紹介**

〇『歩道』

図書

1958（昭和33）年５月15日

125ｍｍ×172ｍｍ

著者の第１句集。川柳入門から30年間の作品を500句余にまとめた。序文は明本常丸、後藤蝶五郎。発行所「川柳句集『歩道』刊行会」。著者の川柳に向うひたむきな姿勢が感じられる句集である。

〇『下戸のたわごと』

図書

1986（昭和61）年９月１日

135ｍｍ×188ｍｍ

著者の第２句集。昭和35年から昭和60年までの25年間の作品をまとめた。年代毎に５年間を各一章とし、それぞれに柳友の祝いの文章を入れている。地味な作品ながら著者の肌ざわりの感じられる句集である。